

はっしひん！ 新青森

青森県立青森西高等学校 × 青森大学

2022年10月20日(木)
第36号 [FREE]
青森大学・青森西高等学校
高大連携事業
協力: JR東日本新青森駅
青森大学社会連携センター



新青森駅 鉄道開業150年祝う

青西高生、書道・ハイキングに活躍

新青森駅で10月15日、「鉄道開業150年」の記念イベントが開かれ、青森県立青森西高校の書道部員らがパフォーマンスを披露しました。また、「青西おもてなし隊」の生徒たちは同駅を起点に行わされた「駅からハイキング」のガイド役を務め、秋晴れの空の下、参加者らと笑顔で語り合いました。

イベントは、前日の10月14日が「鉄道開業150年」、城中学校の吹奏楽部の演奏などをつまり日本初の鉄道が新橋－横浜（現・桜木町）間に開業して150年目に当たることを記念して開かれました。澤村郁子・新青森駅長はあいさつで青森県の鉄道の歩みを振り返ながら、これからも鉄道を支えていく決意を述べました。続いて書道部員5人が音楽に合わせ、代わる代わる筆を走らせて「祝鉄道開業150年貴方を鉄路が馳せる」と書き上げると、見守つていた人たちから大きな拍手が上がりました。駅はコロナ禍前を思わずるにぎわいで、旅行者らはJRねぶた囃子会の囃子どミニねぶた運行、青森市立新

また、「駅からハイキング」には青西おもてなし隊員10人参加し、駅周辺や三内丸山遺跡を案内しました。千葉県から駆けつけた中嶋英雄さんは「三内丸山遺跡をガイド付きで訪れるのは初めて」と期待を膨らませていました。青西おもてなし隊の2年生、今千鶴美さんは「今年は天気も良いので、ハイキングを楽しんでいただければ」と話していました。



青森西高校 「青西おもてなし隊」がゆく⑬

三内丸山遺跡イベントとOB活動

国の特別史跡・世界遺産の三内丸山遺跡で9月17～19の3日間、本年度の「さんまるJOMONの日」が開かれました。クイズラリーや発掘作業の疑似体験、観光客が体験し、青森県立青森西高校の「青西おもてなし隊」をはじめとする生徒たちがボランティアとして運営を支えました。

コロナ禍が始まって3年目、天氣にも恵まれて久しぶりに活気のある遺跡では、青西おもてなし隊の田中美妃さん（2年）＝写真左・左側＝と篠崎莉子さん（2年）＝写真左・右側＝が受付を担当していました。「家族連れの笑顔がとても印象的」と田中さん。篠崎さんは「イベントを楽しんでほしい」と話していました。「縄文パノラマビュー」のコーナーでは、青西おもてなし隊のOBで、青森市内の専門学校生、三上恵利佳さん（20）＝写真上＝がスタッフとして受付業務に追われていました。三上さんは高校時代の活動を振り返りながら「クルーズ船客のガイドなどを通じて、初対面の人にも緊張せず、言葉が自然に出てくるようになります。コミュニケーションの力が向上したのは、青西おもてなし隊の経験のおかげです」と顔をほころばせ、「後輩たちも頑張ってほしい」とエールを送っていました。

本年度は、滞留空間に関する意見を集約し、長万部

新幹線駅デザイン検討委

今年7月に新青森駅などを視察し、青森西高校の「青西おもてなし隊」隊員らと交流した北海道長万部高校の生徒たちが、9月15日に長万部町役場で開かれた「新幹線駅デザイン検討委員会」で成果を報告しました=写真（長万部町役場提供）。

長万部高校の生徒4人と濱田哲也校長、長万部町の新幹線担当者は7月25、26の両日、駅に新設される「滞留空間」の参考にしようと、新青森駅と八戸駅、八戸市中心部を訪れました。検討委員会では生徒たちが、新青森駅構内のペストやモニュメント、金魚ねぶたの形をした「新幹線ねぶた」について報告し、町民や旅行者に愛される空間に向けて抱負を語りました。その後、4グループに分かれてワークショップを行いました。



三内丸山遺跡 繩文中期中葉、墳丘など発見

特別史跡・三内丸山遺跡で行われた本年度の発掘調査で、3棟の竪穴建物跡（写真右上・右下）や、直径1.2m（ほどどの土坑（写真左）が発見されました。集落が最も大きかった縄文中期中葉（約5,000年～4,800年前）の、建物の分布の様子が分かりました。

「第46次調査」として5～10月、「南の谷」北側に4カ所のトレンチ（調査区）を設定して発掘した結果、「TK-7」トレンチから竪穴建物跡が3棟みつかったほか、平安時代の竪穴跡建物1棟が確認されました。また、

「TK-4」トレンチでは土坑が、「TK-5」トレンチでは古柱建物跡がみつかりました。「TK-6」トレンチでは、縄文時代の土坑＝写真中の下部＝がみつかる一方、後年の耕作や工事によつて地面が削られており、調査区一帯の地形が改変されていたことが分かりました。

三内丸山遺跡センター保存活用課の茅野嘉雄・副課長、山地雄大・文化財保護主事は「以前の発掘調査結果と併せて、集落が谷の斜面の下方まで広がる半面、空白になつているところもあり、建物がある程度、まとまつて分布していたことを確認できました」と話しています。

発掘情報は2次元コードから確認できます。



青森県立美術館

「美術館堆肥化計画」

青森県立美術館は10月29日から来年4月2日にかけて、「美術館堆肥化計画」と銘打ち、青森県南部地方（県南地方）を舞台に、同館の建築やデザインを紹介するPR展示と現代アート作品の展示等を行う地域アートプロジェクトを展開します。

美術館としての活動を、土壤環境を整えて作物の成長を支える「堆肥」になぞらえ、2021年度に3カ年計画でスタート。初年度は津軽地方で実施されました。第2弾の2022年度は地域の「縄文」「記憶」「歴史」をテーマに、PR展示「旅するケンビ」と現代アート作品展示およびオンライン勉強会「耕すケンビ」を実施し、年度の最後に県立美術館で「成果展示」を行います。

詳しくは2次元コードから青森県立美術館ホームページの特設ページをご覧ください。

▼旅するケンビ=三沢市歴史民俗資料館、会期：2022年10月29日（土）～12月11日（日）

ネオンサインや制服、コレクション作品に関する映像や写真を、会場の資料と組み合わせて紹介するプロモーション展示を実施。

▼耕すケンビ 県南編：畠（ささや）きを館中です。ご注意下さい。

見学時間 9:00～17:00（入場は閉館の30分前まで）
休館日 每月第4曜日（祝日の場合は翌日）、12月30日～1月1日
観覧料 中学生以下無料
一般 410円（330円）／高校・大学生等 200円（160円）／
※（）内は20名以上の团体料金
※特別展は別料金。展示内容により変更する場合があります。
※個人観覧者は、青森県立美術館のチケット呈示で割引料金あります。
(詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。)

お問い合わせ 〒038-0031 青森市三内丸山305
TEL 017-766-8282 / FAX 017-766-2365
URL <https://sannaimaruama.pref.aomori.jp>

Facebook ページ **Instagram アカウント**
＜ネット情報＞
FacebookページとInstagramアカウントを開設し、独自の記事・情報を掲載しています。ご意見をお寄せ合せ、ご意見等は下記連絡先へお願いします。

新青森駅 ⇨ 三内丸山遺跡センター：循環バス「ねぶたん号」（東口）約20分・300円、タクシー（南口）約10分・1,000円前後、徒歩約30分
 ⇨ 青森県立美術館：「ねぶたん号」（東口）約11分・300円、タクシー（南口）約10分・1,300円前後、徒歩約40分

新青森駅 ⇨ 三内丸山遺跡センター：循環バス「ねぶたん号」（東口）約20分・300円、タクシー（南口）約11分・300円、タクシー（南口）約10分・1,300円前後、徒歩約40分

☆このニュースレターは、青森大学社会学部・櫛引研究室が企画・制作し、文責を負っています。お問い合わせ、ご意見等は下記連絡先へお願いします。

くご自由にお持ち帰り下さい>

県南で展開

編む=会期：2022年10月29日（土）～12月11日（日）参加作家3組が「歴史」「記憶」「縄文」を手がかりに作品を制作・展示する（ほか、オンライン勉強会を開催。○アート・ユーチャー・カンファレンス（アートコレクティブ）：会場＝新郷村・キリストの里公園とその周辺○小田香（フィルムメーカー／アーティスト）：会場＝三沢市・斗南藩記念觀光村内「開墾村」○田附勝（写真家）：会場＝六ヶ所村立郷土館○オンライン勉強会「墓虫山人とみる夢」○オンライン（参加無料・要事前申込）、講師・太田原慶子（青森県立郷土館学芸員）▼成果展示＝青森県立美術館、会期：2023年2月4日（土）～4月2日（日）

開館時間 9:30～17:00（入場は16:30まで）★11月22日まで休館
休館日 毎月第2、第4曜日（祝日の場合は翌日）※企画展開催時、展示替え等により変更する場合あり。
観覧料 一般 510円（410円）／高校・大学生 300円（240円）／小学生・中学生 100円（80円）
※（）内は20名以上の团体料金
※企画展は別料金。展示内容により変更する場合があります。
※企画展観覧者は、三内丸山遺跡センターのチケット呈示で割引料金あります。
(詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。)

お問い合わせ 〒038-0021 青森市安田字近野185
TEL 017-783-3000 / FAX 017-783-5244
URL <https://www.aomori-i-museum.jp>

下さい。また、PDF版を青森大学社会連携センターのFacebookページに掲載しています。いずれも、右側のQRコードからご覧いただけます。
☆このニュースレターは、青森大学社会学部・櫛引研究室が企画・制作し、文責を負っています。お問い合わせ、ご意見等は下記連絡先へお願いします。

FB ページ Instagram 青森大学社会センター Instagram

ポスター等は許諾を得て使用しています

ポスター等は許諾を得て使用しています

くご自由にお持ち帰り下さい>

ポスター等は許諾を得て使用しています